

6/21

大村出身の偉人が
里帰り

長

与専齋と、その長男・称吉の胸像が、長崎医療センターの敷地内にある2人の生家「宜雨宜晴亭」へ移設され、除幕式が行われました。

これは、東京都内にあった称吉の胸像が移設を迫られたことを機に、大村市民病院にあつた専齋の胸像とともに移設されたものです。

専齋は、大村藩出身の医師で、日本の近代医療制度を確立。称吉は、日本消化器病学会の前身を築いた人物です。大村が輩出した2人の偉人の胸像が、生まれ故郷の地に里帰りしました。

長与専齋・称吉先生胸像除幕式



6/21

新駅周辺のまちづくり
についてアイデアを

新

幹線新大村駅(仮称)周辺地域のまちづくりを考えるため、市内外の学識経験者や関係団体の代表者、公募市民など30人からなる「まちづくり計画策定委員会」を設置しました。

市コミセンで行った第1回目の会議では、市長から委員へ委嘱状を交付した後、現況の報告を行い、委員の皆さんで活発な意見が交わされました。

委員会は、般公開しています(市コミセンで開催予定)。これからアイデアを出し合い、来年3月までに意見をまとめ、市長に提出することになっています。

第1回新幹線新大村駅(仮称)周辺地域まちづくり計画策定委員会



6/26

力強い農業の実現へ

大

村市農業委員会(田添会長)は、農業振興に関する農業者の意見や要望を建議書に取りまとめ、市長へ提出しました。

建議書の内容は、認定農業者と農業委員との意見交換会で出された意見や要望を基に、人農地プラン策定の促進や遊休農地の防止と解消、学校給食などでの地元農産物の利用増と販路拡大など、6項目を要望しました。

市長は、「担当課とも協議を行い、できる限り要望にお答えし、国や県に對しても強く要望していきたい。」と回答しました。

農業行政に対する建議書提出



7/1~

貴重なご意見・ご提言
をいただきました

市

民の皆さんから、直接市に対するご意見・ご提言をお聴きする、地区別ミーティングを市内8か所で開催しました。

ミーティングには、市長をはじめ市の理事者などが出席し、長嶋がらんばらんば団体への協力や、自主防災組織結成のお願いなどを説明し、引き続きラリートークを行いました。

今年7地区を夜間に開催。ご参加いただいた皆さんから、貴重なご意見・ご提言をいただきました。その内容や事業の説明などは、「広報おむら9月号」で詳しくお伝えします。

平成25年度 地区別ミーティング



7/7

男女共同参画社会を
めざして

市

は、男女共同参画週間(ちなみ「ハート・バルまつり」を行いました。これは、男女がお互いの個性と能力を発揮できる社会づくりを目指そうと毎年開催しているもので、この取り組みの一環として、講演会を市コミセンで開催しました。

講師には、作家で僧侶の家田莊子さんをお迎えし、「この世に生まれ、生きて、生かされて……あと二歩前へ踏み出したいあなたへ」と題してご講演いただきました。

会場は超満員。皆さんは、講師の興味深い話に聞き入っていました。

大村市男女共同参画推進事業講演会





大村で日本の文化を満喫！ 6月17日～7月19日

昨年姉妹都市を提携した米国サンカルロス市から、3人の学生が大村を訪問し、ホームステイを行いました。市内外でさまざまな交流や学校訪問、体験学習などを楽しみました。



シントラ市公式訪問団が来日 6月5日～7日

ポルトガル共和国のシントラ市から、公式訪問団が来日。アナ・ドアルテ副市長ら3人が、市内を視察しました。6月5日には、松本市長を表敬され、親睦を深めました。

国際交流



伝統継承

黒木の伝統「木遣歌」披露 6月28日

林業が盛んだった黒木町に伝わる伝統の労働歌が披露されました。これは、現在、市が進めている「新編 大村市史」を編さんするにあたり記録を残そうとお願いしたもので、歌うことができない地元の方々に集まっていたきました。披露されたのは、作業の機械化などでほとんど歌われなくなっていた、木を運ぶ時に歌われる「木遣歌」と、木を切るときに口ずさむ「木挽歌」。大木を運びながら息の合った掛け声が、山あいに響き渡りました。



「大村市を支える 8つの力」

8つの力



vol.24

先日、県内のある市長さんと会議でお会いした際、「大村市は年々人口も増えてうらやましいですね。何より市全体に元気がありますよ。」と言われました。日頃から「日本一住みたくなるまち」を目指す私としては心強い限りです。ところで、皆さんは大村に活気がある秘けつは何だと思えますか？私は、大村にはまちづくりを支える「8つの大きな力」があるからだと思います。

三浦・鈴田、大村、西大村、竹松、萱瀬、福重、松原の8地区には、昭和17年に大村市が誕生する前から、各地区の人々が長年培われてきた歴史と文化があり、それが現在の市の発展の確かな礎となっています。

私は、大村が今後も県央の拠点で都市力を高めていくためには、市内8地区のまちづくりの活性化が重要だと思います。このため、地域にある課題を、地域の皆さんが話し合い、知恵を出し合い、主体となって解決に取り組み活性化を図る「住民主導型地域活性化事業」を、平成23年度から実施しています。5月31日、この事業の成果発表会を開催しました。

三浦・鈴田地区では地域絵出の秋まつり「みうら勸作まつり」「鈴田ふれあい祭り」を開催、遊休地を活用して里山村づくりに励む大村地区、農地いづばいにヒマワリが咲き誇る西大村地区、駅での見守り活動の拠点に活用した竹松地区、花の散歩道整備に取り組み萱瀬地区、ふるさとの史跡を継承しようとして活動する福重地区、伝統芸能「野岳蛇踊り」を復活させた松原地区。それぞれの地域の特色を生かし、工夫された企画が実施されており、各地区とも昨年より内容が充実してきていると感じました。

当初は3年間の予定で始めた事業ですが、当初の予想以上に地域の皆さんががんばっておられることから、もっとたくさんの方の皆さんにもご参加いただき、来年度以降も事業を継続させたいと思います。

市民一人ひとりの「力」が地域に集結し、やがて大きな市の「力」となっていくことを心から願っています。